

私とロータリー

寄稿

「今度、新しいロータリークラブを立ち上げるのだが、君も一緒にやってみないか」。こんなお誘いを受けたのは昨年末のことでした。しかしそれまで、ロータリーはまったく別世界だと思っていた私。自分がメンバーになるとは夢にも思っておりませんでした。

RC委員 古屋みらい R C 委員会委員 名古屋クラブ奉仕・プログラム

小出 真弓



ところが、話を聞いて代が多く参加するのこい」という齋藤直美。仲間と一緒に新組織をつくみると、新クラブは財団と。仕事以外で知り合うトガバナーのひと言が大り上げる作業は、生活に学友などを中心に構成す仲間同士が、同じ志で活きく心に残りました。新しいリズムをもたらす新しい試みで、ほかに動けるといふ点にもひ それから約1年。中部 てくていています。も地元で活躍する若い世 かけました。そして、何 名古屋みらいロータリー 仲間との親睦（しんぱ

「I s e r v e」の精神で

より「ロータリー活動をクラブへ入会した私の生 予感させてくれます。今 する上で、大切なのはI 活は大きく変化しまし 後も「I s e r v e」 s e r v eという考えた。仕事の時間を調整し の精神で、クラブととも 方。自分を律し、自分がながら、週1回の例会に 成長できれば、そう思 幸せでなければ、人を幸 参加。毎週の参加は大変 っています。 せにすることはできな なこともありますが、仲

くは、こ

れからのラ イフスタイ ルの充実も